

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第19回 再生普及小委員会

資 料

平成24年6月14日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局



## 目 次

### 【再生普及行動計画ワーキンググループ経過報告】

資料1-1	2011年度再生普及行動計画WGの取組み報告	1
資料1-2	ワンダグリンド・プロジェクト2011活動報告	3
資料1-3	「ワンダグリンド・プロジェクト2011」活動報告(一覧)	5
資料1-4	「ワンダグリンド・プロジェクト2011」報告書作成概要	9
資料1-5	「ワンダグリンド・プロジェクト2011」アンケート回答	11
資料1-6	「ワンダグリンド・プロジェクト2012」活動予定	13
資料1-7	「ワンダグリンド・プロジェクト2012」応募状況(一覧)	15
資料1-8	2012年度再生普及行動計画WGの活動予定	19
資料1-9	第22回再生普及行動計画WGでの議論の結果概要 「自然再生に参加する、行動する」についての検討	21

### 【環境教育ワーキンググループ経過報告】

資料2-1	これまで収集した学校実践事例における今年度の実施状況	23
資料2-2	湿原を題材とした小学校向け資料のとりまとめについて	27
資料2-3	第9回環境教育ワーキンググループでの検討結果	29
資料2-4	環境教育ワーキンググループの2012年度の活動について	31

### 【自然再生と地域産業の連携について】

資料3	「鶴居村・湿原・グリーンツーリズムガイドマップ(仮称)」 の作成について～自然再生と地域産業の連携に向けて～	33
-----	---	----

### 【その他】

資料4	再生普及小委員会の予定(案)	39
-----	----------------	----



## 2011 年度再生普及行動計画 WG の取組み報告

\* 前WG (10月26日開催)以降

## ■ 情報発信機会

## ○ 主催イベント

- ・ 11/21～12/9：釧路湿原自然再生事業紹介パネル展（会場：釧路西郵便局）開催
- ・ 2/13～17：釧路湿原自然再生事業紹介パネル展（会場：釧路市役所）開催
- ・ 4/3～26：釧路湿原自然再生事業紹介パネル展（会場：道の駅摩周温泉）開催
- ・ 3/30～4/26：釧路湿原航空写真展示（会場：塘路湖エコミュージアムセンター）開催

## ○ 参加イベント

- ・ 11/5, 6: 「まなトピア 2011」（主催：実行委員会）【航空写真展示】参加

## ■ フィールドワークショップの実施

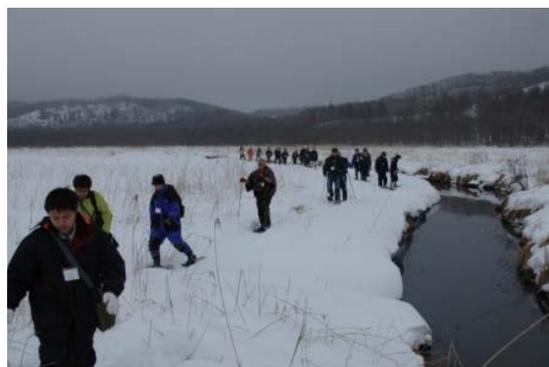
○ 第 8 回「湿原と人の暮らしの境界 5～凍った湿原をゆく～」

日時:2011 年 2 月 7 日 9:00～14:00

案内人:新庄久志座長

参加者:23 名

内容:コッタロ湿原を散策(釧路川の原風景を眺めながら、水路(川)を歩いて、冬のヒトの踏み入れない湿原へ渡り、湧水の湧き出る湿原を歩く



アンケートより :冬の湿原もなかなか良いと思う。本日は気温が高かったので特に楽しかった/本当に楽しい体験でした。ただこの楽しさは実際に体験してもらわないとわかってもらえない類のものだと思います。湿原の楽しさは行ってもらえばきっと伝わると思うので湿原まで「引っ張り出す」ための工夫を考えなくてはなあと実感しました。/ワンダグリンダに参加してくれている人がたくさん参加してくれて良かった。更にもっと多くが参加できる企画にできればよいと思うが案内は大変かも。/コッタロ湿原はもちろん「緑のじゅうたん」←ドラえものの道具みたいでワクワクしました。「おまんじゅう(二幸)」「シャボン玉」と楽しくするアイテムがあって本当に楽しかったです。/湿原の知らなかったことを学び周りの人にも広めたい。/地域の子供達に参加できると湿原への意識が高まると思います。/人の生活圏と接している生物の生態を観察するなどしてはどうでしょうか。

## ■ ワンダグリнда・プロジェクト推進サポーター

2009度から開始したワンダグリнда・プロジェクト推進サポーターは、2012年4月現在43箇所となり、(2011年度新規加入 : 釧路市動物園、ペットシッターWith、シルバーシティーときわ台ヒルズ、HOTEL TAITO、港町かもめホール、夢工房 計6件) 『ワンダグリнда☆ニュース』をはじめ、ワンダグリнда募集ポスター掲示やパンフレットなど各種資料配布、また自然再生事業のポスター掲示などに協力をいただいている。

## ■ 情報発信の拡充

- メールニュース『ワンダグリнда☆ニュース』の配信: 釧路湿原流域の講座やセミナー、イベント情報、「タクバさんのちょっぴりアイヌ語講座」、「ワンダグリнда応募者ちょこっとおじゃまします」等の内容で、毎月2回程度配信した。現在の配信先は355ヶ所(昨年比約30件増)。
- 市町村広報誌への情報提供: 毎月釧路湿原国立公園連絡協議会の協力により、毎月関係市町村に情報を配信した。(掲載については各市町村の判断により、釧路市は毎月掲載)
- ホームページ更新: 毎月2回程度実施した。
- 自然再生事業の「今」を紹介するブログ「森林再生の今!」: 月3回程度更新した
- 自然再生事業をわかりやすく紹介するページを作成、公開予定。(茅沼地区旧川復元)

茅沼地区自然再生事業計画

環境を守る、はじめの一步。  
茅沼からはじまる!

**実施主体** ~だれがやっているのか~  
茅沼地区の旧川復元自然再生事業は、釧路湿原自然再生協議会の協力を得て、  
釧路開発建設局が実施します。

**実施理由** ~なぜやるのか~  
1947年当時、航行した流れでしたが、1970年台に行われた埋め立て工事によって、航行河道は河  
路直化となり  
① 河道中心部での石礫や土砂の堆積が増加。  
② 旧川水位や地下水位が低下、氾濫頻度が増加したことで乾燥化が進み、コンクリートが河床をパンク  
させ、乾燥。  
③ 市街地などの良好な生育環境が失われた。  
④ 航行河道では河床と河堤の間に自然の生態系が失われ、単調な景観になったため。

**実施目標** ~なにをめざしているのか~  
① 河道中心部への土砂の流入などの負荷の軽減  
② 自然の生育による自然再生の発生  
③ 河道中心部、主要な支流などの生育環境の復元  
④ 河道周辺の復元  
これにより、生態系の回復が減少する質的な変化を、記録化することによって自然環境が失われ、生態系  
の回復への負の影響を減らす質的な変化の記録を目指しています。

**対象区域** ~どこをやっているのか~

## ワンダグリンド・プロジェクト2011活動報告

### ■「ワンダグリンド・プロジェクト2011」参加者への活動支援

- ・ワンダグリンド・プロジェクト2011登録証の発行
- ・ワンダグリンド・プロジェクトロゴマークの配布
- ・メールニュースでの活動発信
- ・FMくしろへの出演案内
- ・ホームページ、イベント時での取り組み紹介
- ・パネル展等での展示、資料配付での紹介(12回)
- ・活動PRの場の提供(エコフェア・鶴居ふるさと祭り・学習会)
- ・フィールドワークショップの開催(2回)
- ・特典カヌーツアーのご招待
- ・報告書の作成、配布

### ■「ワンダグリンド・プロジェクト2011」の経緯

2011年度は42団体・個人/71取組(協議会含む)の応募があり、2011年6月7日に行われた第17回再生普及小委員会で承認され、「2011年度具体的な取組み」として公表。年度途中に5団体4取組の追加応募があり、最終的な応募数は47団体・75取組であった。(資料1-3参照)

### ■「ワンダグリンド・プロジェクト2011」報告書作成

2011年度は応募の取組から年度内に取り組みなかったものなどを除き、最終的に44団体・個人69取組(協議会含む)の「2011年度具体的な取組み」があり、それらの報告書を各団体・個人に作成依頼し取りまとめ「ワンダグリンド・プロジェクト2011報告書」として釧路湿原自然再生事業普及行動計画2011年度の具体的な取組として活動状況の発信を行った。(資料1-4参照)

### ■参加者へアンケートを行いワンダグリンド・プロジェクトへの意向を伺った。(資料1-5参照)



2012年3月

団体名	取組み概要		No
アトリエ「アリス」	釧路湿原などの自然を含む釧路地域の素晴らしさを描くことによってアピールする	通年	1
	釧路に自生する植物を使ったアート作品の製作と発表	通年	2
	釧路川周辺の清掃活動を実施します	随時	3
伊勢志郎	来訪者の釧路湿原国立公園来園記念に、折鶴を関連施設に提供します	通年	4
(株)FMくしろ	釧路短期大学の西英一教授をお迎えし、釧路湿原の四季折々の話題をラジオで発信します	通年	5
オカリナ演奏 宮永真智子	オカリナ演奏で協力し釧路湿原に興味を持っていただきます	随時	6
お菓子司 二幸	「湿原まんじゅう」を販売します	通年	7
賀勢朗子(かせいじん)	釧路湿原に生息する動物折り紙の製作・展示	随時	8
カヌープロマルチ工房	カヌーを通じ自然の素晴らしさや釧路湿原の大切さをつたえます	5月～10月	9
川口 秀人	湿原の動植物や風景の写真をカレンダーやポスターにして職場などに掲示します	通年	10
環境コンサルタント株式会社	達古武湖面をカヌーで清掃します	7～8月	11
	湿原流域で体験型環境教育を実施します	8～11月	12
環境省釧路自然環境事務所	自然再生事業を行っている達古武地区にて、市民体験調査会を行います	年3回	13
喜多島 麻鈴	コンサートを通じて、釧路湿原をPRしていきます	随時	14
釧路ウォーターアートプロジェクト	市民参加型の環境アートで水の大切さを発信します	随時	15
釧路国際ウエットランドセンター	湿地・生物多様性に係わる途上国の行政官等を対象とした、湿地保全やワイズユースに関する研修を実施します	6-7、8-10月2回	16
	釧路川蛇行復元現場周辺の環境調査を、地域の人々と一緒に行います	初夏、秋	17
	ホームページ、ニュースレター等による釧路湿原の情報発信をします(英語・日本語)	随時	18
	世界湿地の日(2月2日)記念し、湿地を訪ねる「冬のエコツアー2012」を開催します	1月下旬～2月上旬	19
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	クリーンウォークを実施します	4月～11月	20
	特定外来生物「ウチダザリガニ駆除調査」を実施します	4月～10月	21
	温根内木道定点解説を実施します	7月～9月	22
釧路湿原国立公園連絡協議会	温根内ビジターセンターと塘路エコミュージアムセンターで行われるプログラムの情報共有と施設間の連携を図ります	通年	23
	ホームページによる釧路湿原の情報を発信します	通年	24
	「釧路湿原こどもレンジャー」事業を実施します	随時	25
	釧路湿原国立公園クリーンデーを実施します	随時	26

団体名	取組み概要		No
釧路湿原全国車いすマラソン大会実行委員会	第26回釧路湿原全国車いすマラソン大会を実施します	8月28日	27
釧路湿原MTBクラブ	マウンテンバイクで釧路湿原周辺の廃道や林道での自然探勝ツーリングを行います	通年	28
釧路湿原マラソン実行委員会	釧路湿原マラソンを通じて湿原のすばらしさを参加者の方に伝えます	7月31日	29
(NPO)釧路湿原やちの会	釧路湿原道路の清掃活動を実施します	4月	30
	温根内ビジターセンター駐車場の清掃活動を行います	5月～10月	31
	修学旅行・一般観光客(団体・個人)・企業の研修旅行等を受入れます	随時	32
(財)釧路市民文化振興財団(釧路市生涯学習センター)	釧路学教養講座「道東地方の自然と歴史(釧路湿原を訪ねて)」を開催します	8月27日	33
	いきいき女性講座「温根内ミズゴケ湿原へ行こう」を開催します	7月8日	34
	いきいき女性講座「キラコタン岬から釧路湿原を眺めてみよう」を開催します	6月24日	35
	まなぼつと子ども探検隊「森林と動物を調べる2011」を開催します	9月17日	36
	湿原ほたる講座「釧路湿原の夜の隠れた風物詩を探ろう」を開催します	7月下旬	37
釧路短期大学	湿原をとりまく地域食材を使用した、学生考案の「咲くさクッキー」を釧路全日空ホテルと連携して販売し、湿原自然再生に還元します(諸活動と収益の一部寄附)	通年	38
釧路ポタニカルアートの会	地元の植物やその周辺の環境を観察し学び、希少な植物の姿を細密画として描き、作品を環境保護活動に役立てます	随時	39
くしろ自然再生解説員	釧路湿原の特徴や自然再生事業などについて解説を実施します	4月下旬～9月	40
釧路湿原川レンジャー	釧路湿原の良質な河川環境づくりに貢献します	通年	41
こどもエコクラブくしろ	釧路湿原におけるマルハナバチの観察調査を実施します	5月中～10月中旬	42
沢田建設株式会社	釧路湿原近郊でゴミ拾いを行います	6,7月・10,11月	43
	ウチダザリガニ防除活動を行います	9月頃	44
さとぼん	ホームページによる釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報を発信します	通年	45
市立釧路図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター	釧路湿原に関する情報提供及び展示を通じた湿原の紹介をします	通年	46
太平洋総合コンサルタント株式会社	標茶高校における体験型の環境教育を実施します	9～10月	47
タクパ(ペンネーム)	道東の自然や地名をアイヌ語で紹介します	通年	48
★ タンチョウコミュニティ	タンチョウのえさづくりプロジェクトの実施	5,9,1,2月	49
	酪農地域の生き物調査	7～9月	50
(NPO)タンチョウ保護研究グループ	タンチョウの保護研究に関する教育普及活動を行います	1月、随時	51
★ 辻野 正	ペーパークラフトで釧路湿原などの生き物を紹介します	随時	52
奈良 笹本由文	鶴居村私有林の自然林育成	随時	53

団体名	取組み概要		No
(株)日専連釧路	「日専連釧路フィッシャーメンズカード」利用額の一部を釧路湿原国立公園連絡協議会に寄付します	通年	54
(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	施設来訪者へのタンチョウの解説	10月～3月	55
	学生ボランティアネットワーク組織「F.A.ネットワーク」主催のワークキャンプの受け入れ	年2回(夏、春)	56
	タンチョウティーチャーズガイド(TTG)講習会の開催	12月	57
	ボランティア・ツアー「グリーンホリデーin釧路～タンチョウの食事場所を整えよう～」の開催	9月23～25日	58
★ ハートンツリー	料理と共に自然と共にある風景や暮らしを感じてもらいたいと思っています	通年	59
北海道阿寒高等学校	「地域巡検」を実施し、湿原や釧路の自然の大切さを体験します	8月下旬～9月	60
北海道標茶高等学校 釧路湿原再生プロジェクト	高校生による自然環境の調査、研究をします	通年	61
林野庁北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	「森林アクティビティ講座」の実施	随時	62
	「雷別ドングリ倶楽部」の実施	通年	63
	「お庭で苗木育成」の実施	通年	64
Rainbow Angel (ペンネーム)	釧路湿原の魅力をブログ発信をします	通年	65
リンク・リング	野生生物へのエサやりの是非の説明をして、人と動物・自然のかかわりについて考える機会を持ってもらう	随時	66
釧路シャケの会	シャケの稚魚の里親募集と放流式を実施します	5月	67
(NPO)トラストサルン釧路	当会の保護地での自然再生イベント開催および釧路湿原周辺での自然観察会開催	5、7、10、11月	68
(NPO)北海道フィッシャーズ協会	釧路湿原を守るための清掃活動をします	春・秋	69
★ イオン釧路店 チアーズクラブ	フィールドや学習会を通し釧路湿原を学びます	夏・秋	70

46 団体・個人／70取組み

釧路湿原自然再生協議会	釧路湿原自然再生協議会や各委員会の情報を発信します(会議公開、HP、ニュースレター発行)	随時	1
	学習会や講演会などを行います	随時	2
	パネル展などを実施します	随時	3
	視察・研修などを受入れます	随時	4
	自然再生に関わる資料を発刊します	随時	5

47団体・個人／75取組み(協議会含む)



## 「ワンダグリンド・プロジェクト 2011」 報告書作成概要

### ■ 報告書作成のねらい

- 釧路湿原自然再生普及行動計画(以下、「再生普及行動計画」と略)の2011年度具体的取組みの状況を記録する。
- 再生普及行動計画の活動状況を、圏域内外に広く発信し、釧路湿原の保全・再生に向けた多様な活動や参加の機会を多くの人に知ってもらう。
- 新たな取組みを呼びかけ、誘発していくための材料とする。

### ■ 作成方針

- 再生普及行動計画や具体的取組みが何であるのか分かりやすく説明する。
- 具体的取組みの実施者作成の報告書を基本とし、個々の取組みを統一した書式で編集する。
- 関係者のみならず、さまざまな立場の人に手にとっていただけるよう、デザイン・装丁等に配慮する。
- 印刷物としての配布だけではなく、再生普及行動計画WG通信等のウェブサイトでも公開する。

### ■ 仕様

- 装丁 / A4判、カラー表紙、本文モノクロ印刷、約100ページ
- 印刷部数 / 1200部
- 発行者 / 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
- 発行日 / 2012年 6月上旬

### ■ 配布に関して

- 釧路湿原自然再生協議会構成員・事務局機関
  - 公共施設、機関 / 釧路管内教育機関(小・中・高・大・専・養護)
  - WG事務局より随時配布(郵送希望者は、切手つき返信用封筒を事務局宛に郵送→配布)
  - 釧路市市民活動センターわっとにて希望者に配布
  - くしろエコ・フェア2012等各イベント
  - WG構成メンバーの活動の中で配布(機会や部数等を事務局にご連絡ください)
- この他、「再生普及行動計画ワーキンググループ通信」WEBサイトで公開する

## ■ 構成・目次

はじめに

- 発行者代表(再生普及小委員会委員長)名で挨拶文を記載
- 1 ワンダグリンダ・プロジェクトとは
  - 釧路湿原自然再生事業の趣旨、協議会、進行管理の仕組み等の概略を記述
  - 再生普及行動計画作成の趣旨、経緯、進行管理の仕組み等の概略を記述
  - 再生普及行動計画の3つの柱をパンフレット記載レベルで記述
- 2 2011年度具体的取組み(ワンダグリンダ・プロジェクト2011)の経緯
  - 募集からとりまとめの経緯を記述
- 3 2011年度具体的取組み(ワンダグリンダ・プロジェクト2011)取組み一覧
  - 再生普及行動計画のねらい別取組み一覧表を掲載
- 4 2011年度具体的取組み(ワンダグリンダ・プロジェクト2011)の報告
  - 各実施者作成の報告を、統一した書式(2009報告書参照)により編集
  - 各団体の連絡先は個票には記載せず、冒頭に問い合わせ先として事務局を冒頭に記載

参 考

- 釧路湿原自然再生事業の趣旨、協議会、進行管理の仕組み等の概略を記述
- 協議会の構成と再生普及小委員会名簿、再生普及行動計画WG名簿を記載
- 索引(団体・個人別取組み一覧とそのページナンバー)
- ワンダグリンダ・プロジェクト推進サポーターの掲載
- ワンダグリンダ・プロジェクトの活動の様子を掲載

「ワンダグリнда2011」アンケート回答

質問	ワンダグリндаプロジェクトに参加してどのような成果がありましたか？今後の活動に役立てられそうなことがあれば、あわせてご記入ください。	ワンダグリндаプロジェクト2011で、不満だったことはなんですか？改善すべき点、ご要望などあればお書きください。	今後、ワンダグリндаを活性化するには、どのようなテーマや内容を希望されますか？アイデアがあればお聞かせください。	その他、ご意見を各自自由にお書きください
1	遠距離にあっても、何か釧路湿原と関わりを持った活動をしたと考えている人にとっては、プロジェクトに参加することによってそのような機会を得られるのでとてもよいと思います。			
2	平成23年度はあまり活動できませんでした	他の団体と一緒になにかしたいです。	エコフェア意外のこと、総て一緒ではなくてもいくつか回って何かできたらいいですね。	催しにもっとお誘いください。
3	特にありません	特にありません	会員限定のフィールドワークなど参加しなかったのですが、都合が合わず参加できませんでした。今後も行われることを期待しています。	更新もあまり出来ておらず、参加を継続するものためられる状況ですが、今後ともよろしくお願いたします。
4	・定期的イベント情報を流していただき、活動のPRができた ・事務局から関心のある活動や、その活動を進める人を紹介いただいた	特に思いつきません	上記のように、団体と団体、人と人の連携や出会いを演出してもらえると楽しいですね。	
5	ワンダグリндаニュースによって、広報を行っていただき助かりました。多くの人知ってもらえたと思います。			
6	本年度は震災関連のことがらに忙し例年のような活動ができませんでした。	参加団体との横のつながりが持ちにくい	ほかの団体と協力して一緒にできる機会が欲しい	ワンダグリнда全体の動きがわかりにくい年でした。
7	活動内容を多くの人に伝えることができた。	参加者で連携し、新たな活動を行うことができればよい。	参加者やワンダグリндаプロジェクトの活動をより多くの人々に知ってもらうために、子ども向けの報告書を作成し、小中学校などに配付する。	
8	3.11を経験して以降、自然に対する考え方、ひいては生き方全体に対して国内において人々の認識は大いに変わってきたと思います。今一度、自然に対する基本的な認識を確認する作業が必要だと思います。		釧路湿原のみにこだわる行動であれば市民の関心は呼べないようです。生活全体に及ぶ自然ならびに社会環境も合わせて対称にすることが出来れば活性化するのはないでしょうか。	日常生活の中での自然の営みに関わる議論がほしいと思います。
9	マリモ講演会開催のお知らせを、ワンダグリнда☆ニュースで配信していただきました。今後は講座に限らず、展示のお知らせなどにも利用させていただきたいと思っております。			
10	事務局を通して写真のリクエストをいただき、ありがたく感じました。 ・フィールドワークショップでは、新庄先生をはじめ、多くの先生方や参加者に貴重なお話をいただくことができました。	・参加者(ワンダグリнда登録者)に昨年は「登録証」をいただきました。 ・バッジや腕章などがあると、フィールドでも観光客などに話しかけるきっかけが出来、いいかなあと思います。		
11	表面に現れる成果ではありませんが、精神的に色々成果がありました。何かを利用して微力ですが湿原の魅力を広めて行ければと思っています。	フィールドワークショップの湿原内部に入る時は参加者の体力を考慮してほしいと思います。	ワーキンググループによる富原小4年生とのレクレーションを参考に子供達にも広めて欲しいと思います。	これからも微力ですが協力して行きたいと思っておりますのでよろしくご指導ください。
12	いろいろな団体や人達と知り合いになり、私の活動を理解してくれたことを光栄に思い、今後レパトリーの数を増やし活動範囲を広げたいと思っています。	ある地区の町内会の代表さんに自然再生の話をしたら「むずかしいことです」との事でした。自然再生と聞いただけで引いてしまいが参加が困難だと思ってしまうのが現状だと思います。又2011年の報告書においても個人参加が少なくまだまだPR不足だと思います。	自然再生意識の強い国は以前に破壊の反省から盛んになり、日本ではまだ自然が豊富にあると思われ意識が弱いと有る本に記されてきました。釧路湿原の破壊、外来種の浸透の現状を知ってもらうこと、開発と共存。楽しく参加が必要だと思いますが、広範多岐なのであえて言うなら「楽しく参加しよう」が思いあたりました。	東京都で生まれ育ちましたが子供の頃はセミ、バッタ、コオロギ、カマキリをつかまったり農業用水でフナ、ドジョウ、ザリガニなど自然と親しみ野鳥、野花、星(1等星の名前)が好きでほんの些細なきっかけで独自にここまでできました。釧路湿原の自然に協力できることは私の本能が目覚めた木がします。
13	セイヨウオオマルハナバチがこれ以上釧路湿原に分布拡大しないように早急に手を打たないとならないと思います。特定外来生物(セイヨウオオマルハナバチ・ウチダザリガニなど)の防除について地域の人々にもっともって理解してもらふ必要性を痛感しています。			
14	普段、立ち入る事のできない場所へ行けたことは釧路湿原を案内しているものにとって、釧路湿原をさらに知る良い機会となりました。			報告書を出すために活動している訳ではない！！と思ってしまうのです。書くの苦手、アンケートもまたかあ！！なのでいつもいつも選んで出しています。申し訳ない！！と思いつつ今年もまた今頃になりました。困ったものです。
15	メールニュースを楽しく拝見しています。 タクツバさんには、4月から、月1回アイヌの物語や言葉についてのお話をさせていただくことになりました。ワンダグリндаに参加している同士で横のつながりができて大変うれしく思います。ありがとうございます！			
16				私は網走のサンゴ草祭りに何度か参加した事があります。2年前のサンゴ草が絶滅に瀕した時再生にどれほどの地元の苦勞があったかニュースで知りました。釧路湿原保全に釧路市民として微力ながら協力できればと思います。
17	色々な人との交流増えた			



## 「ワンダグリンド・プロジェクト2012」活動予定

### ■「ワンダグリンド・プロジェクト2012」募集

2月13日～3月12日を募集期間として募集チラシを作成(参考資料参照)各施設に配布、また新聞、HP等で広報し「ワンダグリンド・プロジェクト2012」の参加者を集った。新規3団体(釧路駐屯地曾遊会:細岡展望台整備ボランティアの実施、西村孝弘さん:釧路川流域でライン等の撤去回収,NPO法人環境把握推進ネットワーク～PEG:釧路湿原やそこに生息する動植物を題材とした学習会等の実施)を含む 48団体・個人、72取組(協議会含む)の応募があり、第19回再生普及小委員会の承認を得て「ワンダグリンド・プロジェクト2012」として公開を予定している。(資料1-7参照)

### ○「ワンダグリンド・プロジェクト2012」参加者への活動支援予定

- ・ワンダグリンド・プロジェクト2011登録証の発行
- ・ワンダグリンド・プロジェクトロゴマークの配布
- ・ワンダグリンド・プロジェクト普及シールの配布
- ・ワンダグリンド・プロジェクト参加団体間の交流場の提供
- ・メールニュースでの活動発信
- ・FMくしろへの出演案内
- ・ホームページでの取り組み紹介
- ・パネル展等での展示、資料配付での紹介
- ・活動PRの場の提供(エコフェア・産業まつりなど)
- ・★自然再生と市民をつなげる場の提供(自然再生参加イベント)
- ・学習、交流の場としてフィールドワークショップの開催(2回)
- ・特典カヌーツアーのご招待
- ・報告書の作成、配布



「ワンダグリンド・プロジェクト2012」 応募状況（一覧）

資料1-7

※ 新規参加は、団体・個人名の欄に「★」で表しています。

2012年6月現在

団体名	取組み概要		No
釧路湿原全国車いすマラソン大会実行委員会	第26回釧路湿原全国車いすマラソン大会を実施します	8月25、26日	1
太平洋総合コンサルタント株式会社	標茶高校における体験型の環境教育を実施します	9～10月/2～4回	2
釧路湿原MTBクラブ	マウンテンバイクで釧路湿原周辺の林道ツーリングを行います	通年/月2回	3
シルバーシティときわ台ヒルズ	釧路湿原について学ぶ自然文化講座を実施します。	1～3月/1回	4
辻野 正	ペーパークラフトで釧路湿原などの生き物を紹介します	随時	5
釧路国際ウエットランドセンター	湿地・生物多様性に係わる途上国の行政官等を対象とした、湿地保全やワイズユースに関する研修を実施します	5-6、8-10月/2回	6
	釧路川蛇行復元現場周辺の環境調査を、地域の人々と一緒に行います	初夏、秋/各1回	7
	ホームページ、ニュースレター等による釧路湿原の情報発信をします(英語・日本語)	随時	8
	世界湿地の日(2月2日)記念し、湿地を訪ねる「冬のエコツアー2013」を開催します	1月下旬～2月上旬	9
伊勢志郎	来訪者の釧路湿原国立公園来園記念に、折鶴を関連施設に提供します	通年	10
川口 秀人	湿原の動植物や風景の写真をカレンダーやポスターにして多くの人が集まる場所などに掲示します	通年	11
釧路湿原国立公園連絡協議会	温根内ビジターセンターと塘路エコミュージアムセンターで自然ふれあい行事を実施します。また来訪者などに自然解説や情報提供を行います。	通年	12
	釧路湿原に関する情報提供を自然情報誌やガイドブック、ホームページなどで行います	通年	13
	釧路湿原子どもレンジャー活動を実施します	随時	14
	釧路湿原国立公園クリーンデーを実施します	随時	15
釧路湿原マラソン実行委員会	釧路湿原マラソンを通じて湿原のすばらしさを参加者の方に伝えます	7月29日	16
タンチョウコミュニティ	タンチョウのえさづくりプロジェクトの実施	5、9、10、12、1、2月	17
くしろ自然再生解説員	釧路湿原の特徴や自然再生事業などについてボランティアで解説を実施します	4月下旬～9月	18
釧路湿原川レンジャー	釧路湿原の良質な河川環境づくりに貢献します	通年	19
かせいじん	湿原動植物の創作折り紙の製作・展示	随時	20
市立釧路図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター	釧路湿原に関する情報提供及び、関連講座や展示を通じた湿原の紹介をします	随時/1回程度	21
(NPO)トラストサルン釧路	ナショナルトラスト地の環境保全作業にボランティアの方と共に取組み、湿原やトラスト地の観察会を行います。	5～11月/5～6回	22
カヌープロ	カヌーを通じ自然の素晴らしさや釧路湿原の大切さをつたえます	5月～10月	23
釧路ボタニカルアートの会	釧路湿原の植物を描きます	週に1度	24

団体名	取組み概要		No
アトリエ「アリス」	釧路湿原などの自然を含む釧路地域の素晴らしさを描くことによってアピールする	通年	25
	釧路に自生する植物を使ったアート作品の製作と発表	通年	26
	釧路川周辺の清掃活動を実施します	随時	27
釧路シャケの会	シャケの稚魚の里親募集と放流式を実施します	5月	28
こどもエコクラブくしろ	釧路湿原における特定外来生物の調査(セイヨウオオマルハナバチ・ウチダザリガニ等)防除を実施します	5月～10月/6回	29
沢田建設株式会社	釧路湿原近郊の清掃活動を実施します	6,7月・10,11月/ 各1回	30
さとぼん	ホームページによる釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報を発信します	通年	31
釧路短期大学	湿原をとりまく地域食材を使用した、学生考案の「咲くさクッキー」を釧路全日空ホテルと連携して販売し、湿原自然再生に還元します(諸活動と収益の一部寄附)	通年	32
イオン釧路店 チアーズクラブ	フィールドや学習会を通し釧路湿原を学びます	夏か秋/1回	33
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	「森林アクティビティ講座」の実施	春・夏/各1回	34
	「雷別ドングリ倶楽部」の実施	通年/5回	35
	「お庭で苗木育成」の実施	通年	36
タクパパ(ペンネーム)	道東の自然や地名をアイヌ語で紹介します	通年	37
お菓子司 二幸	「湿原まんじゅう」を販売します	通年	38
オカリナ演奏 宮永真智子	オカリナ演奏で協力し釧路湿原に興味を持っていただきます	随時	39
奈良 笹本由文	鶴居村私有林の自然林育成及び調査記録	随時	40
(NPO)釧路湿原やちの会	宮崎岬清掃登山を実施します	4月中旬	41
(財)釧路市民文化振興財団(釧路市生涯学習センター)	釧路学教養講座「道東地方の自然と歴史(霧多布湿原を訪ねて)」を開催します	7月14日	42
	釧路学教養講座「道東地方の自然と歴史(釧路湿原の湧水地を訪ねて)」を開催します	8月4日	43
	いきいき女性講座「キラコタン岬から釧路湿原を眺めてみよう」を開催します	9月14日	44
	まなぼと子ども探検隊「森林と動物を調べる2012」を開催します	9月15日	45
	湿原ほたる講座「釧路湿原の夜の隠れた風物詩を探ろう」を開催します	7月下旬	46
★ 釧路駐屯地曹友会	細岡展望台整備ボランティアをします	7月上旬	47
(株)FMくしろ	釧路短期大学の西英一教授をナビゲーターにお迎えし、ラジオで湿原の魅力を発信します	通年/毎週月	48
(NPO)タンチョウ保護研究グループ	タンチョウの保護研究に関する教育普及活動を行います	1月、随時	49
(NPO)北海道フィッシャーズ協会	釧路湿原の清掃活動をします	5月、10月	50
★ 西村 孝弘	釧路川流域で釣り人が放置していったライン等の撤去、回収をします。	随時	51
(株)日専連釧路	「日専連釧路フィッシャーマンズカード」利用額の一部を釧路湿原国立公園連絡協議会に寄付します	通年	52

団体名	取組み概要		No
環境コンサルタント株式会社	達古武湖面をカヌーで清掃します	7月	53
	湿原流域で体験型環境教育を実施します	8～10月	54
環境省釧路自然環境事務所	自然再生事業を行っている達古武地区にて、市民体験調査会を行います	年3回	55
北海道阿寒高等学校	「地域巡検」を実施し、湿原や釧路の自然の大切さを体験します	8月下旬～9月	56
(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	施設来訪者へのタンチョウの解説	10月～3月	57
	学生ボランティアネットワーク組織「F.A.ネットワーク」主催のワークキャンプの受け入れ	年2回(夏、春)	58
	タンチョウティーチャーズガイド(TTG)講習会の開催	12月	59
	ボランティア・ツアー「グリーンホリデーin釧路～タンチョウの食事場所を整えよう～」の開催	9月23～25日	60
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	クリーンウォークを実施します	4月～11月	61
	特定外来生物「ウチダザリガニ駆除調査」を実施します	4月～10月	62
	温根内木道定点解説を実施します	7月～9月	63
ハートンツリー	食材で作る手作りコスメ、ハーブ栽培の実施	随時	64
リンク・リング	野生生物へのエサやりの是非の説明をして、人と動物・自然のかかわりについて考える機会を持ってもらう	随時	65
喜多島 麻鈴	コンサートを通じて、釧路湿原をPRしていきます	随時	66
★(NPO)環境把握推進ネットワーク～PEG	釧路湿原やそこに生息する動植物を題材とした学習会などの実施	未定	67

47団体・個人／67取組み

釧路湿原自然再生協議会	釧路湿原自然再生協議会や各委員会の情報を発信します(会議公開、HP、ニュースレター発行)	活動中	1
	学習会や講演会などを行います	活動中	2
	パネル展などを実施します	活動中	3
	視察・研修などを受入れます	活動中	4
	自然再生に関わる資料を発刊します	活動中	5

48団体・個人／72取組み(協議会含む)



## 2012年度再生普及行動計画WGの活動予定

以下、「◎」はWGメンバーと事務局で実施するもの、「□」は事務局が行うもの、「★」は2012年度の新たな取組みを示します。下線は今年度の重点的に取り組む事項をそれぞれ示しています。

### 1 WGの開催と行動計画の進行管理、活動支援

行動計画の進行管理、参加者の活動支援、活性化に向けた取組みを行う。

- ◎ 行動計画WGの開催：2回程度開催(4月26日及び11月頃の2回を予定)
- ワンダグリンダ・プロジェクト2011活動報告書作成
- ワンダグリンダ・プロジェクト2012の進捗把握、活動支援
- ワンダグリンダ・プロジェクト2012参加登録証及びサポーター登録証の発行
- ★ワンダグリンダ・プロジェクト関連者に普及シールの配布(参加者意識の向上/応募の魅力(釧路湿原の保全活動取り組みのラベルとして))
- ★ワンダグリンダ参加団体間の交流の促進
- ◎ フィールドワークショップの開催(7月キラコタン周辺、1～2月頃久著呂川周辺を予定)
- ◎ ワンダグリンダ特権カヌーツアーの実施

### 2 情報発信・普及活動の拡充

#### 2-1情報発信・普及活動

第2期行動計画の重点分野「釧路湿原を知る・楽しむ・学ぶ」を広げていくため、多様な活動を発信していく。

- ★再生普及行動計画通信HPの運営、リニューアル
- ◎ メールニュースの配信(□)・掲示(◎)(月2回程度)
- ◎(市町村) 市町村広報誌への情報提供、記事掲載
- ◎ FMくしろ「ゆうゆう湿原塾」への出演
- ◎ イベントへの出展、パネル展の開催等(□)、協力(◎)  
(★道の駅(摩周温泉)、釧路空港、まなトピア2012、★釧路市祭り等を予定)
- ◎ メディアへの発信、参加の働きかけ
- ◎ 知名度アンケートの実施
- ★幌呂地区湿原再生事業実施計画のパネルの作成

## 2-2 「自然再生の今」を伝える情報発信の拡充

第2期行動計画の重点分野「自然再生に参加する、行動する」の推進に向けて、自然再生への関心喚起や参加促進に向け自然再生事業の「今」を伝える働きかけを行う。

- 他の5つの小委員会との協働による情報発信体制(ルールづくり)の構築
  - ◎ ★「森林再生ブログ」の「自然再生ブログ」への変更により、多様な自然再生事業の情報の提供や更新頻度の向上を図る
  - ★自然再生事業の概要HPの作成
- ◎ ★「自然再生を伝えることのできる人材」の育成を目標に、WG、ワンダグリンダ参加者及び自然ガイドなどを対象とした「自然再生ガイド」研修等の実施検討

## 3 自然再生の参加の機会づくり

第2期行動計画の重点分野「自然再生に参加する・行動する」の機会を創設する。

- 他小委との連携による、実施計画ごとの市民参加の機会づくり
- 自然再生事業の地元向け見学会
  - (下幌呂(湿原再生)2回、達古武(森林再生)1回開催予定)
- ◎★市民活動(ワンダグリンダ)による自然再生への取り組みを促進させる

## 第22回再生普及行動計画 WGでの議論の結果概要

### 「自然再生に参加する、行動する」についての検討

#### 【経緯】

#### 第2期再生普及行動計画の3つの柱

- ・釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ
- ・自然再生に参加する、行動する
- ・地域と関わり、人をつなぐ

第2期再生普及行動計画（2010年～2014年）では上記の3つの柱のもとで計画を進めています。今期、重点的に進めていきたいと考える《自然再生参加に参加する、行動する》につなげる為に、昨年度は情報発信の強化に力をいれ、パネル展示等の拡充に加え、再生現場の見学会などを行い、地域住民の方々により湿原を身近に感じてもらうよう進めました。また、現在、湿原内でおこなわれている各小委員会での自然再生事業における市民参加の方法について検討しました。

これらを踏まえ、第22回行動計画WGでは、「自然再生に参加する、行動する」をさらに具体的に進めるため、行政が行う自然再生事業の場以外での、市民が自然再生に参加できる事柄にはどのようなものがあるかを検討しました。

#### 【検討方法】

○「自然再生」には、「過去にあった自然の姿を人間の手で取り戻す（復元）」だけでなく、「今残されている自然を維持すること（保全）」など、広い意味が含まれていることを再認識



○3グループに分かれて、行政がおこなっている自然再生事業にこだわらない幅広い「自然再生に参加する、行動する」にはどのようなものがあるかを議論

#### 【検討結果】

主な意見は以下のとおり（裏面に全てのアイデア取りまとめ）

- ・自然再生について人に伝える（仕組みづくり）
- ・植林を行う苗を育てる
- ・企業や個人などが自然再生のための基金に寄付
- ・自分の家の周りの外来種を駆除、植えない
- ・野生動物に配慮した運転をする（減速など）
- ・ゴミ拾い

#### 【今後について】

○検討結果を参考にして、市民に自然再生には様々な取組があることの周知を行い、またイベント等を通して「自然再生に参加する、行動する」を促進するための機会を増やしていきたい。一方で、今回の検討のみでは、幅広い「自然再生の参加」についてのアイデアがすべて出たとは言いがたく、引き続き検討を行っていく必要があると考える。

## 市民ができる「自然再生に参加する、行動する」取り組みの検討結果

### ①テーブル

- ・人の集まるところに稚魚の水槽を置き飼育する
- ・川で遊び「私の川」と意識する
- ・市民が再生の概念を知ることから始まる
- ・長く住んでいる人から話を聴き「再生」の元を知る

### ②テーブル

- ・自然再生の具体的なイメージと必要性を知る
- ・湿原の現状を知る機会を増やす
- ・まず湿原にふれる機会をもっともっと多くする
- ・湿原を案内できる人を増やす
- ・人を育てる
- ・観光ガイドに加えて、自然再生ガイドも入れてもらおう
- ・ノロッコ号の協力、JR、説明員
- ・カヌー団体の協力
- ・自然再生を学ぶカリキュラムをつくり、大学のカリキュラム化する  
卒業した人をガイドとして特に認定する(佐渡のトキ)
- ・ワンダグリンドプロジェクトに一定数、参加したら一単位として若者をよぶ
- ・冬は湿原によりアプローチできる機会(冬のカリキュラムの開発を)
- ・子供向けの教材開発する
- ・学校、児童での植樹などをする
- ・企業への働きかけをする
- ・募金を集って物品が購入できるよう
- ・ワンダグリンドプロジェクトに参加したプログラムの保険はタダ(半額)
- ・保険会社の参加方法(イメージアップとなる)

### ③テーブル

- ・自然再生をつたえる
- ・ゴミ拾いをする
- ・ウチダザリガニバスターズをする
- ・ヒシをとって食べる
- ・山菜講座をする
- ・種とり、苗を育てる
- ・湿原こどもレンジャーを増やす
- ・寄付&ファンドの仕組みをつくる
- ・水にやさしい洗剤を使う
- ・自分の家と周辺の外来種を駆除する、植えない
- ・野生生物に配慮した運転をする
- ・キツネに餌をあげない

## これまで収集した学校実践事例における今年度の実施状況

平成 20 年から 3 年間で情報収集を行ってきた学校実践事例（小学校 12 事例、中学校 2 事例、高等学校 1 事例）は WEB サイトで紹介しているが、今年度から小学校において新学習指導要領が本格施行となった（中学校：平成 24 年度から、高等学校：平成 25 年度から）ことから、これまで収集した学校実践事例の実施校を対象として、現在の実施状況についてアンケート調査を行い、情報更新を行った。

### (1) 同じ内容を継続して実施している事例

対象事例	対象時間	学年
釧路市立鶴野小（H14～実践）	総合 27 時間	4 学年
釧路市立愛国小（H19～実践）	総合 40 時間	4 学年
鶴居村立鶴居小（H19～実践）	総合 55 時間	3 学年
鶴居村立下幌呂小（H20～実践）	総合 18 時間（H21）	全校児童
鶴居村立下幌呂小（H19～実践）	総合 25 時間	3, 4 学年合同

### 《今後の継続実施における課題》

- ・インターネット等で情報を得るだけでなく、実際に行ってみる機会（フィールドワーク）をいかに取り入れていくか。
- ・新学習指導要領の実施に伴って、総合的な学習の時間が削減されているため、今年度実施状況を踏まえて配當時数を含め指導計画の見直しをさらに行っていく必要がある。学習の進捗と学校行事等の関係で、見たいと思った動植物の時期にタイミング良く出かけるよう計画するのに苦慮している。また、ビジターセンターで説明していただける方（ボランティア）が減ってきている（世代交代の時期らしいです）ので、児童の主体的な活動として行っていくと、本校のような人数では、質問をしたり、アドバイスをいただいたりすることが難しかった。（今年度は 1 名）
- ・地域の協力（デントコーン畑の使用）、活動意欲の持続。
- ・温根内ビジターセンターの方との連絡調整を計画的に行っていくこと。
- ・自分達の発見や学びを地域の人に広める活動をしていきたい。

《環境教育ワーキンググループに対する要望・意見》

- ・児童がわかる湿原のガイドブックがあると助かります。実際に出かけて分かることは大事なことです。下調べをしたり、湿原に行ってきた更に生まれた疑問の解決や思考の資料にしたり出来るものがあると助かります。(児童向けのもの)。
- ・湿原の動植物の写真データがあったらいいと思います。
- ・活動に必要な物資の支援。
- ・最新のデータが知れる方法があるといい。湿原の植物、動物、気候など調べ学習に使う資料や本がもっとほしい。

(2) 一部内容を変更して実施している事例、変更内容

対象事例	対象時間	学年	最終実施年度	変更内容
釧路市立青葉小 (H20～実践)	総合 52 時間	3 学年	H20	総合 35 時間で実施。2 年間継続して行っていた活動を 1 年間に縮小。
釧路市立青葉小 (H21～実践)	総合 91 時間	4 学年	H21	
鶴居村立鶴居小 (H20～実践)	総合 15 時間、 学級レク 3 時間	4 学年	H22	総合 20 時間で実施。グループで 1 本の木を選び、四季を通じてその木の変化を追う活動。
弟子屈町立奥春別小 (H19～実践)	総合 62 時間	全校 児童	H22	総合 56 時間で実施。川下りと魚類層調査は現在行っていない。
標茶町立標茶中 (H19～実践)	総合 35 時間	1 学年	H21	総合 23 時間、技術 3 時間で実施。事前学習の内容の絞り込み(時数減)、チャレンジタイムの調査活動・まとめ活動の縮小。

《変更理由》

- ・子どもの実態として、釧路湿原に目を向ける前段階として、身近な自然(学校周辺)についての学習や、植物の栽培等を行う必要があると判断したため。
- ・ネイチャーガイドさんにアドバイスを頂き、子どもが変化をとらえることにより、自然を見つめ直すことができると思ったから。
- ・町の企画や協賛行事と重ねて行うこともあるため。
- ・新学習指導要領で総合の時間が全体で 50 時間に縮小されたため、本単元についても全体計画を縮小せざるを得ない状況となった。

《今後の継続実施における課題》

- ・教育課程への位置づけ（はじめに内容ありきからではない）

《環境教育ワーキンググループに対しての要望・意見》

- ・ビジターセンター等、各施設では、子ども達の質問に答えて頂いたり、資料や植物、動物の観察に必要なものなどを貸して頂いています。小学生でも見てわかる展示物、DVDなどがあると、さらに学習を深めることができるように思います。一般向けのものでは、理解が難しいのが実情です。
- ・平成 23 年度、釧路川のフィールドワークに参加させていただきました。再蛇行によって釧路川が元の姿に戻っていく姿を身近に感じることができました。生徒にも、簡単に参加できるフィールドワークがあるといいです。ウチダザリガニの駆除などを標茶でもできないでしょうか。

(3) 現在は実施していない事例

対象事例	対象時間	学年	最終実施年度
釧路市立光陽小（H18～実践）	総合 93 時間	4 学年	H18
釧路市立幣舞中（H19～実践）	総合 35 時間	1 学年	H20

《実施していない理由》

- ・計画が学校全体の計画として位置付いておらず、指導者の転出により次年度へ引き継がれなかった為。
- ・総合的な学習の時間の年間時数が 50 時間に削減されたことと、キャリア教育に係る内容に移行したため。



## 湿原を題材とした小学校向け資料のとりまとめについて

学習指導要領の変更に伴い、従来釧路湿原を題材にして環境教育を行っていた「総合学習」の授業時間が減少することから、理科や社会科などの教科学習において釧路湿原を題材にした学習を行うことの可能性について検討を行っている。

第9回環境教育ワーキンググループにおいて、事務局が作成した案をもとに、とりまとめ方針、提供方法等について議論を行った他、いくつかの単元におけるとりまとめ案を作成した（資料 2-3 参照）。

### 1) 資料のとりまとめ方針についての委員からの主な意見

- ・教科書で扱っている題材に対応した釧路湿原に関係する情報を、写真、イラスト、映像等の素材に説明を付けて提供してはどうか。
- ・資料の活用方法（児童への教え方）や個々の情報を関連づけた断定的な解釈は行わないように注意し、資料の活用は教員の自主性に委ねるべきである。

### 2) 学校への資料提供の方法について

児童用資料、教師用資料ともに、印刷物とデータによる提供が考えられ、情報提供の形としては、以下のものが考えられる。

資料の形態	内容	考えられる提供方法	備考
印刷物	サンプルとして1部を印刷	各学校への郵送等	増刷は教員が行う前提
データ	各資料のPDFデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDで各学校へ郵送等</li> <li>・WEBサイトからダウンロード</li> <li>・問い合わせに応じて提供</li> </ul>	コスト、情報更新、著作権等の整理が必要。
	パワーポイントデータ		
	写真等の素材データ		

### 3) 学校への周知の方法について

資料の存在を学校へ周知し、活用を促進するための方策として、学校へのチラシ等の配布・郵送、教育委員会との連携、教員が集まる機会での案内等が考えられる。また、効果的にPRを行うためには、多様な主体から協力を得る必要がある。

周知の方法・PR媒体	具体案（多様な主体の協力を前提とした案）
チラシ等の配布・郵送	実践校へのチラシ郵送、釧路湿原周辺施設での設置等
教育委員会との連携	チラシ等の棚入れ、メール、校長会・教頭会等における案内
教員が集まる機会に案内	教員研修講座、教員のグループ・研究会
WEBサイトへの掲載	自然再生協議会関係主体が運営するサイトやメーリングリスト等
メールでの周知	
マスメディア	新聞、地域FM、広報誌等の紙面媒体等



## (第 9 回環境教育ワーキンググループでの検討結果)

いくつかの単元におけるとりまとめ案について

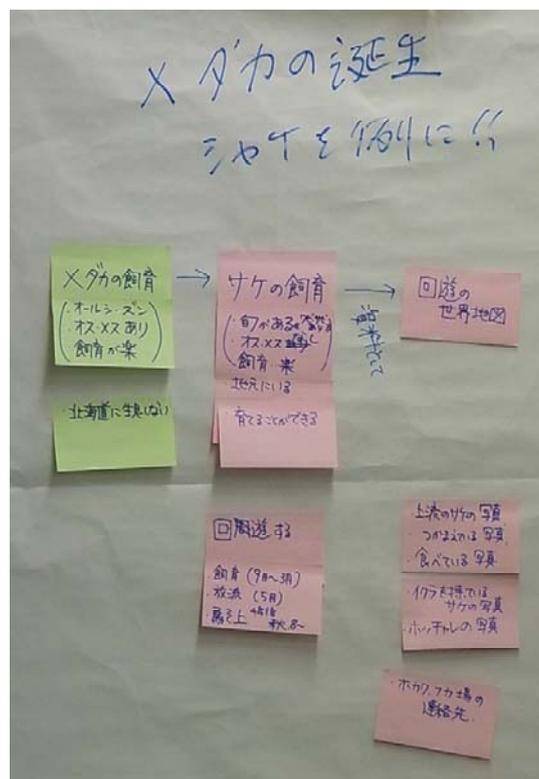
## &lt;理科 6年 土地のつくりと変化&gt;

- ・教科書の記載と同様に釧路の地層の写真を対比して書き出してはどうか。
- ・教科書では道外の地形を主に紹介しているが、釧路に合わせて説明できる。
- ・データをデジタル化し教室のモニターで映すと良い。
- ・写真と地層の位置図、マップを使う。



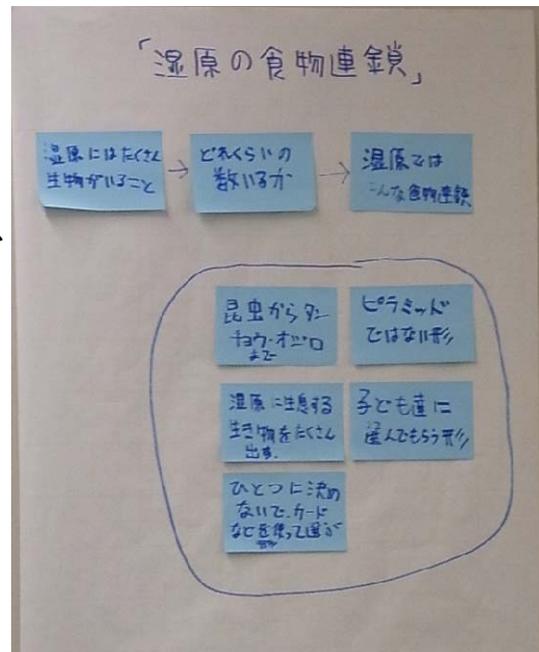
## &lt;理科 5年 メダカの誕生&gt;

- ・北海道にはメダカがないので、北海道の魚を題材に使う。
- ・シヤケは、教室で飼育することもできる。
- ・釧路では遡上が見られ、受精等も捕獲場で見せてもらえ、釧路では実物で見ることができ、水揚げも見られる。
- ・食料として使うことも併せて教えることができる。
- ・回遊やその途中の過ごし方の資料もある。



### 〈理科6年 生き物と環境〉

- ・ 湿原の中の食物連鎖を、湿原の動植物の写真を提供し、つなげて書いてもいいしカードで提供してもよい。
- ・ 食物連鎖を表すのは、ピラミッド型ではなく、もっと複雑な実態があり、教員用には様々な動植物の関連性を線でつなげて示してはどうか。
- ・ 子ども達同士がカードをつなげて学べると良い。
- ・ ポイントとして、湿原特有の生き物の存在を知る、学べるということ。遊びながら学ぶことができる。
- ・ さらに余力があれば外来生物の存在も学べるとよい。



(今後について)

ワーキンググループで検討された意見を元に、まずは上記の単元に関して実際に学校に配布できる形に整理し、できたものから学校への配布を進めていきたい。

## 環境教育ワーキンググループの 2012 年度の活動について

## 1) 教科学習での活用促進を目的とした湿原を題材とした学習資料の作成と周知方法の検討

5・6年生理科、社会科について、学校に提供できる情報として具体的に取りまとめを進めるほか、有効な周知方法について検討を行う。

## 2) 教員研修の実施

理科および社会科の視点からフィールドワークを主体とした教員研修を2回実施する。1回については釧路教育研究センターとの共催講座として実施する。

## (1) 体感！釧路湿原～理科と社会の視点から～ 塘路湖の自然と湧き水

塘路湖周辺をフィールドとして、地域の産業（漁業）の源となっている豊かな自然や豊富な湧き水を体感するとともに、オオハンゴウソウを切り口に外来種の在来種への影響等を学ぶ機会とする。

[日程] 2012年8月23日（木）

[対象・定員] 釧路管内の小学校・中学校教員 20名程度

[講師] 新庄 久志 氏（釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員）

照井 滋晴 氏（NPO 法人環境把握推進ネットワーク -PEG 代表）

[共催] 釧路教育研究センター

## (2) 体感！釧路湿原～理科と社会の視点から～ 釧路川 源流からの水の路をたどる（仮）

※2回目の実施講座については、9月～10月の実施に向けて調整中。



「鶴居村 湿原・グリーンツーリズムガイドマップ(仮称)」  
の作成について  
～自然再生と地域産業の連携に向けて～

2012. 6. 14

釧路湿原自然再生協議会  
再生普及小委員会事務局

1

## 自然再生と地域産業の連携に向けて

### 釧路湿原の保全・再生

- 地域の暮らしや産業に貢献する湿原保全・再生でありたい。
- 湿原の保全・再生への地域の関心を広げ、直接間接の参加を増やしたい。

- 釧路湿原の魅力や価値をより多くの人に知ってもらい、ファンを増やしたい。
- 地域産業と連携したい

### 鶴居村の産業(観光・酪農など)

- 鶴居村を目的地として訪れる人を増やしたい。
- 通過型ではなく、ゆっくり滞在してこの暮らしを見てもらいたい。
- 高じて移住する人を増やしたい。

- 鶴居村の暮らしの魅力を伝えたい。
- 鶴居の「食」の魅力をPRしたい。
- 「食」につづく魅力を創り出したい。

### 湿原流域をキーワードにした「ガイドマップ」の作成

- 鶴居村を拠点に、湿原、酪農・食など鶴居村の持つ魅力を紹介するためのガイドブックを作成する。
- 鶴居村・観光協会と自然再生協議会(再生普及小委員会)の協働で進める

2

# 鶴居村内関係者ヒアリング

## \* 目的

- 自然再生と地域産業との連携について、地元キーパーソンの意見、意向等をお聞きする。
- 連携の手段のひとつであるガイドマップづくりについての意見、提案、アドバイス等を収集する。

## \* 実施時期

- 2012年1月30日～5月14日・計12回

## \* 訪問先

- 村内の自然系施設、観光・体験施設、自然ガイド、酪農・地域づくり関係者等、14名のみなさま

3

# いただいたご意見から(自然再生について)

## \* 再生事業の評価

- 自然再生そのものは好意的に受け止められている一方で、形を変えた土木事業、過去の反省を求める意見もあった。
- 地域への説明不足、情報の少なさ、役所主導(=住民参加の不足)故の関心の薄さ、地域の利益が見えていないこと等、自然再生が地域に根付いていない旨の指摘があった。
- 「放っておけば自然に戻るのではないか」という声もあった。

## \* 再生事業の普及・参加について

- 地域が自然再生にどうかかわれるのかわからない、(普及小だけではなく)他の小委員会の分野にもっと市民との接点がほしい、という意見をいただいた。
- 調査結果の地域へのフィードバック、地域が(仕事として)参加すること、(一過性の行事ではなく)継続的なコミュニケーションの必要性をご指摘いただいた。
- ワンダグリンダやガイド活動をしている方々が、自然再生のことを伝えていけるよう、情報提供・研修機会をもってはどうか、との提案があった。

4

## いただいたご意見から(地域産業 1/2)

### \* 自然再生と観光

- 自然再生と観光・地域振興の両立については多くの方にご賛同いただいた。
- 人と湿原の接点(下幌呂、温根内VC)や再生のストーリーは、観光・文化資源として活用できる。長期滞在・移住には、文化的素養のメニューが有効。

### \* 自然再生と酪農

- 酪農家は周辺に湿原があることは意識している。ラムサールや国立公園の指定で価値は認識し、湿原に影響はないように気を遣っている(糞尿処理等)
- 自然再生事業と酪農には距離感がある。

### \* 観光と酪農

- 酪農体験の観光利用拡大や湿原やタンチョウの酪農ブランド化には課題がある。
- 酪農の生活風景自体が鶴居の魅力・観光資源であり、ありのままを見てほしい。
- チーズ工房は住民や長期滞在者の特典。長期滞在には菜園(収穫・料理)も。

5

## いただいたご意見から(地域産業 2/2)

### \* タンチョウ観光

- タンチョウ観光は大きな問題はないが経済効果は限定的でワイズユースに課題。
- 冬季がピークで他地域と差別化できており、通年観光のポテンシャルが高い。

### \* 観光振興に向けて

- オーバーユース対策・ルール化(撮影をめぐるトラブル・釣り・天然記念物等)が必要。保護と利用のゾーニング(細岡・温根内≠キラコタン・宮島岬)を急ぐべき。

6

# いただいたご意見から(事業の進め方に関して)

## \* オープンな運営

- 村内の横の連携、オープンな事業運営で協力者を拡大していくことが重要。(内発的な拡大のためにも必要。)

## \* 継続できる体制の確保

- 一過性ではなく継続・定着させることは簡単ではない。
- 地元に担い手を確保・養成する必要がある。

## \* 地元・子どもが楽しむことが重要

- まず地元が楽しむことが重要。(再生事業の見学・説明の機会自体は別途必要)
- 子どもと一緒に楽しむことがポイント。(愛着を持ち、誇りを持てるように)

## \* 情報発信

- 観光、酪農、湿原等、鶴居の魅力の楽しみ方や滞在メニューをまとめて見られるもの(印刷物、WEB等)が有用。
- 道外や海外にもっと情報発信したほうがいい。
- 地図やガイドブックなどのツールが更新されていない。

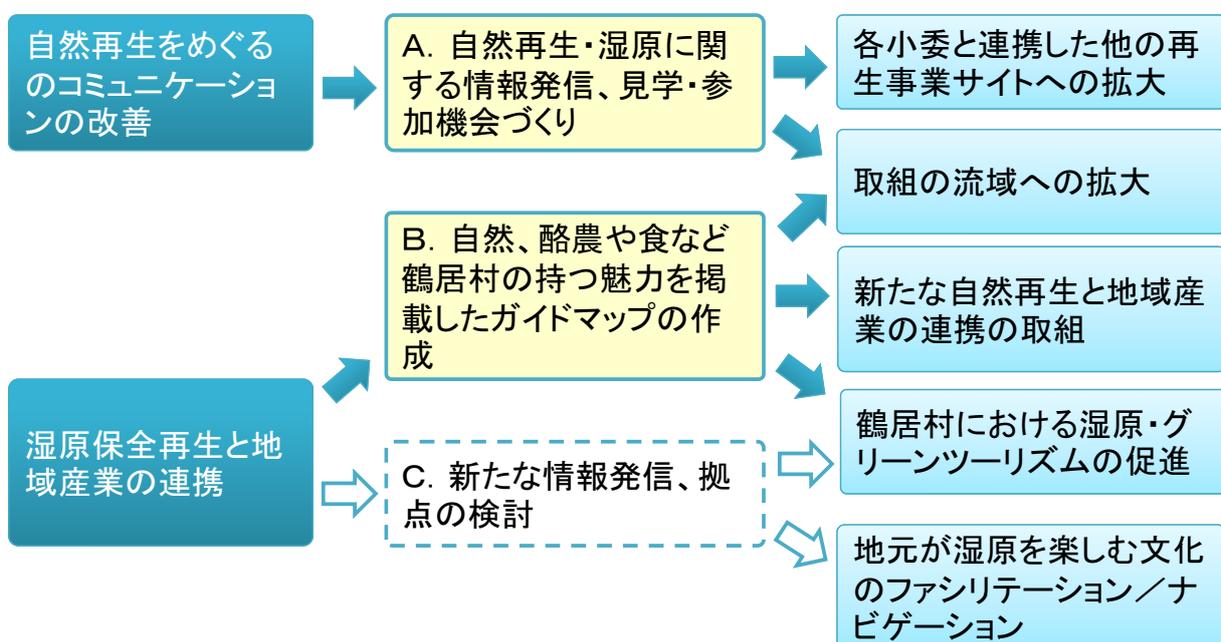
7

# 自然再生協議会(再生普及小委)としての将来の方向性(案)

協議会レベルの使命

2012年度のアクション

将来展望(3~5年程度)



8

## 2012年度事業(案)

### ① 鶴居村 湿原・グリーンツーリズムガイドマップ(仮称)の作成・配布

- 鶴居村に来訪する個人旅行者、滞在者を対象に、湿原・タンチョウ・酪農・食等の鶴居村の魅力を組み合わせて楽しむためのガイドマップを作成する。
- 個人旅行者のセルフガイドとして使える程度に正確な地図、スポット、モデルコースなど具体的な情報を掲載する。
- 村内や湿原周辺の集客拠点、域外の旅行・地域振興業界に発信する。  
※ WEBによる発信、英語版等も要検討(次年度?)

### ② モデルツアーの実施

- ①の掲載事項を組み合わせ、地元が自ら楽しめる水準のツアーを企画し、関係者で実証する。(9月頃?)

### ③ タスクチーム、ミーティングの設置

- **タスクチーム**:再生普及小委(事務局:環境省)、鶴居村、鶴居村観光協会
- **ミーティング**:タスクチームから村内関係者および再生普及小委員に参画を呼びかけ、事業のアイデア出し、作業協力をフラットに行う会議(とりまとめ役は置かない)

9

## 2012年度スケジュール(案)

2012年 6月~	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タスクチームからヒアリング先に参画・協力を要請(コアメンバー確保)。併せて、進め方やマップのコンセプトに関する論点について相談 <b>第19回再生普及小委員会</b></li> </ul>	10月	<p style="text-align: center;"><b>第3回ミーティング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務局集約情報の共有、掲載方針の検討</li> <li>○ モデルルートの活用可能性の検討</li> <li>○ 上記を踏まえたマップのコンセプト(使い方を含むコンテンツ等の再検討)</li> <li>○ PR・対外発信の検討</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 村広報誌原稿提出(11日期限)</li> <li>○ ミーティング開催準備</li> <li>○ ツールの構成検討、コンテンツに係る取材、情報・データ収集を開始。</li> </ul>	以降~	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マップの制作</li> <li>○ 季節別モデルルート及び掲載方針等の検討 <b>第20回再生普及小委員会</b></li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 村広報誌で事業の周知 <b>第1回ミーティング</b></li> <li>○ 事業の到達目標、実施体制、工程、アウトプット(形態、読者想定、販売是非等)の確認、合意</li> <li>○ ミーティングの性格の確認</li> <li>○ マップのコンセプト、コンテンツ案の検討</li> <li>○ 取材・情報収集先の検討(協力いただける場合には一部役割分担)</li> </ul>	12月	<p style="text-align: center;"><b>第4回ミーティング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マップ案の検討</li> <li>○ 季節別モデルルートの検討</li> <li>○ プロモーション活動の検討(直近の活動と継続的な活動・体制の検討)</li> </ul>
以降~	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関係者によるモデルルート試行の検討</li> <li>○ 事務局による取材・情報収集・メンバーからの情報集約</li> </ul>	以降~	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マップの修正作業</li> </ul>
9月	<p style="text-align: center;"><b>第2回ミーティング(フィールド巡検)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関係者によるモデルルート体験・評価</li> </ul>	2013年 2月	<p style="text-align: center;"><b>第5回ミーティング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マップ最終案の検討</li> <li>○ 今後必要な取組の検討</li> </ul>
		3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マップ完成・配布</li> <li>○ 以降の取組の検討</li> </ul>

10

## 今後に向けて(将来展望)

### 鶴居村における湿原・グリーンツーリズムの促進

- 湿原流域の滞在型観光の促進、湿原を楽しむ生活文化の創出を目指す。
- プログラムづくり、情報発信
- 継続的な活動体制の確保が必要(人材育成、資金調達)

### 取組の流域への拡大

- 鶴居村での取組をモデルにして、流域(5市町村)に拡大していく。
- 機械的に順次進めていくのではなく、拡大には検討が必要

### 新たな自然再生と地域産業の連携の取組

- 今回の取組をきっかけとした新たな自然再生と地域産業の連携のあり方の模索
- 関係者との対話の継続

## 再生普及小委員会の予定(案)

資料4

2011年 12月6日	<b>第18回再生普及小委員会 開催</b> ・再生普及行動計画WG経過報告について ・5年目の施策の点検について			<b>第9回環境教育WG 開催</b> ・環境教育WG経過報告について ・自然再生と地域産業の連携について		
2月7日	第8回フィールドワークショップ 開催		2月20日	<b>第9回環境教育WG 開催</b>		
2月13日～	「ワンダグリンド・プロジェクト2012」募集スタート					
4月22日	<b>第22回再生普及行動計画WG 開催</b>					
6月～8月	「釧路湿原には楽しいがいっぱい～釧路湿原の自然再生に参加しよう」実施					
6月14日	<b>第19回再生普及小委員会 開催</b> ・再生普及行動計画WG経過報告について ・自然再生と地域産業の連携について				<b>第10回環境教育WG 開催</b> ・環境教育WG経過報告について	
6月14日	ワンダグリンドプロジェクト交流座談会		7月	<b>第10回環境教育WG 開催</b>		
8月上旬	第9回フィールドワークショップ 開催  (その他随時) ・ワンダグリンドプロジェクト2012の進捗状況把握・活動支援 ・パネル展の開催 ・知名度調査アンケートの実施 ・HPのリニューアル、自然再生ブログのスタート・更新 ・自然再生事業の地元向け見学会		8月23日			教員研修(1) in 塘路周辺
10月	<b>第23回再生普及行動計画WG 開催</b>		9月～10月			教員研修(2) in 釧路川
11月	<b>第20回再生普及小委員会 開催</b>					